

令和5年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校

建学の精神	基本的な生活習慣(躰)の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的な生活習慣と規範意識の確立 3. すべての人にとって、安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	指導法の研究と評価法の検証 chromebookを活用した家庭学習法の推進	ほとんどの教室にホワイトボードとプロジェクターが設置され、教室移動をしなくてもICTを活用した授業が行えるようになり、とても快適になっている。また、Googleの教育サービスを活用し、タブレットを活用した授業や電子的な提出方法について、取り組みが進	新学習指導要領に対応した学習評価方法の運用に向けて、各教科で情報交換をしながら、効果よく評価をするための材料を準備し、より適切な学習評価ができるように改善点	生徒が効果よく学習できるようICT設備と教科書の教授資料をしっかりと活用する。また、タブレットを活用するため、電子的な提出方法についての取り組みを広げていく。教科書だけでなく問題集や参考書も合わせた生徒の一連の学習活動が円滑に行えるような教材の選定が重要となる。	毎年ホワイトボードとプロジェクターの設置を進めていただき、どのコース、学年でも快適にICTを活用できるようになった。環境や教材を上手く活用して授業効率をアップさせておられる先生方がたくさん増えてきている。最初に設定した教育課程を見直すことと、教科書改訂のタイミングで教材選定を見直せば	B	B	教室の環境面では十分な設備があるので、あとは授業の効率を良くして円滑に内容をinputさせ、生徒が活動できる時間を生み出すことによって、thinkingができるグループワークやoutputやreflectionができる小テストなどをたくさん取り入れると、活発な授業になる。そのためには、教科書と副教材の選定と連携が大変重要になることがこの2年間で理解できた。それが上手くいかない教科は年間を通して効率が上がらない。教育課程を見直して各コースが学習すべき内容と順序を整理した上で、各教科が各コースに最適な教材を活用	
	進路	進路保障を担う進路指導の充実	昨年度も総合型選抜や学校推薦型選抜など、年内に合格を決する生徒が86%をしめ、実態に合った指導が求められる。具体的には実用英語技能検定2級取得・GETCSコア880点以上、志望理由書・小論文対策である。	担任間と協力し、進路実現のために生徒自らが積極的に取り組むことができるようとする。具体的には、公務員対策講座参加、2社以上の会社見学や面接指導、履歴書の指導が挙げられる。	＜1年次＞職業観を育てるため、地元で活躍される社会人にお話しいただき、職業ガイダンスや職場体験を展開する。「働くとは」「お金を儲けるとは」「社会に貢献するとは」「仕事の面白さ、やり甲斐」など、問いかけたりする。また、地元企業就職に向けて面接練習を行う。また、進路相談にボランティア活動や地域・学習探究、資格取得の自分探し活動。＜2年次＞進路は自分自身に近づけるための適性診断や自己分析、他己分析により自己理解を深め、小論文対策など自己表現力を高める。就職は就きたい職種から企業を調べ、プレゼンテーションで表現力を高める。また、地元企業就職に向けて面接練習を行う。また、進路相談にボランティア活動や地域・学習探究、資格取得の自分探し活動。＜3年次＞進路は志望校から受験校へ変わり、志望理由書の作成、面接指導、受験カンターなどの作成により行動計画を立てさせる。就職は就職活動の一環として自己アピールの作成、面接練習、求人票の見方、履歴書の作成等を実施する。進路実現に向け、年間最後の進路ガイダンスで受験校や入社企業などの発表、最終確認をする。	＜1年次＞5月に地元で活躍される社会人にお話しいただき、職業ガイダンスを実施した。10月には職場体験を実施し職業観の育成に努めた。また、「なりたいたい自分をイメージさせ高校生活できるように過ごすのかレポートを書いた。＜2年次＞就職、進学ともに適性診断や自己分析、他己分析により自己理解を深めることができた。作文や小論文対策の時間がほとんど作れなかったが、探究ボランティアや地域探究、学習探究のプレゼンテーションを通して表現力(書く・話す)を高めることができた。＜3年次＞就職、進学ともに自己PR文や志望理由書の作成、面接指導など実施した。また、卒業後に困らないよう、「お金の話」「社会制度(保険など)の話」「進学の話」など講演を実施することができた。3年生と語る会では、受験の際に困らないよう、2年生に自	B	C	進路指導の最終目標は生徒の進路保障にあると考える。合格だけを見れば達成率は高く、十分な結果のように思えるが、自分のやりたいこと、希望した進路に進んでいる者は、決して多くはない。特に、就職や大学進学に関しては、受験者の倍率が低いとろや学力試験を課せられ、ふるいにかけられる者も多いため、事前の準備が十分でない者は断念せざるを得ない。自分の希望する進路を勝ち取るためには、時間をかけ、キャリアを積んでいく必要がある。そのため、2年次の目標にキャリアアップを設定しているが、生徒の多くは受け身になってしまい、その意味を理解できず、自ら行動へ変えていける者は少ないのが現状である。キャリアアップの申方は、過去の先輩方の合格分析により、企業や大学が何を求めているのか検証したものである。現に、2年次に設定しているボランティア活動や英検取得などは、生徒の自主性や行動力、協調性、また基礎学力を測る指標にされており、進路実現に重要なキャリアになっている。しかし、これらを経んじてしまい、3年次になって慌てる者が多い。残念ながら、検定取得などは、3年次になってからでは遅い。いくら環境を整えても、自身の目標をかなえるための明確な行動計画や緊張感など、自発的に進路実現を促す取組ができなければ、希望通りの進路実現は夢で終わる。現在、進路実現のためのカリキュラムは整ってきたが、次のステップとして、な	
	情報	教育情報化推進 情報活用能力の育成と教科指導におけるICT活用の推進と指導力向上	1人1台端末は2年生まで整備済みである。教科や授業によって、積極的に活用されている。その反面、活用されていない授業もある。また生徒も授業以外でも、活用できていない現状がある。	ICT機器を活用した授業の推進について。また生徒の情報活用能力の育成、推進を行っていく。教職員だけでなく生徒への活用研修や相談会を学期に1回は開催する。	ICT機器を活用した教育活動の推進を研修を通して実施する。また、生徒の情報活用能力を向上するよう取り組みを実施していく。探究学習や部活動など自主的な活動にも活用を推進したい。そのための研修を行う。	デジタル採点システムの導入を進めた。2学期に研修会を実施する。このシステムにより、採点の効率化と指導改善につなげていきたい。生徒への自主的な活動への利用推進の研修会は実施できていない。	B	B	進路指導の最終目標は生徒の進路保障にあると考える。合格だけを見れば達成率は高く、十分な結果のように思えるが、自分のやりたいこと、希望した進路に進んでいる者は、決して多くはない。特に、就職や大学進学に関しては、受験者の倍率が低いとろや学力試験を課せられ、ふるいにかけられる者も多いため、事前の準備が十分でない者は断念せざるを得ない。自分の希望する進路を勝ち取るためには、時間をかけ、キャリアを積んでいく必要がある。そのため、2年次の目標にキャリアアップを設定しているが、生徒の多くは受け身になってしまい、その意味を理解できず、自ら行動へ変えていける者は少ないのが現状である。キャリアアップの申方は、過去の先輩方の合格分析により、企業や大学が何を求めているのか検証したものである。現に、2年次に設定しているボランティア活動や英検取得などは、生徒の自主性や行動力、協調性、また基礎学力を測る指標にされており、進路実現に重要なキャリアになっている。しかし、これらを経んじてしまい、3年次になって慌てる者が多い。残念ながら、検定取得などは、3年次になってからでは遅い。いくら環境を整えても、自身の目標をかなえるための明確な行動計画や緊張感など、自発的に進路実現を促す取組ができなければ、希望通りの進路実現は夢で終わる。現在、進路実現のためのカリキュラムは整ってきたが、次のステップとして、な	
2. 基本的な生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	BLENDの入力によって出欠管理が行えるようになり、生徒の出欠状況が円滑に確認できるようになった。教員もBLENDを使用することは慣れてきたが、入力に漏れがあると正確な欠時数が把握できないため、小まめ	担任・学年部長・授業担当者で連携を回り、出欠入力を徹底するとともに、欠時数が増える傾向にある生徒を把握し、早期の段階で生徒や保護者と連携をおこなっている。	担任の先生には「1日の終わりに全ての時間に出欠が入力されているかをチェックして頂き、それを最終的に学年部長が確認し出欠一覧表を教務部に提出する。長欠や教育的指導の生徒についてのみ手書きでの記載をお願いしている。	学年部長の先生方にBLENDで出欠未登録箇所を検索する方法をお伝えしてから多少の改善が見られ、以前と比較すると漏れが少なくなってきた。成績会議でも担任が正確な数字で指導できるように、常に正しいデータになっていることを求める発言があった。	B	B	BLENDを導入してから、出欠については学年部長の方で日々入力が完了しているかを確認していただき、漏れがあれば担任に連絡してもらい伝達してきた。BLENDを導入してから年数が経過し、先生方もだいぶ慣れてはきたが、毎日最新のデータになっているかといえは完璧ではない。学年部長のレベルではこれ以上の改善は期待できているので、教務部の各学年の先生方に分掌の仕事として、日々の出欠入力確認をしてもらうという方法があると考えている。	
	生徒指導	校外外で社会的規範意識の確立	SNSによる生徒同士のトラブル。通学時の自転車等のマナーや、近隣施設でのマナーの改善。	人間関係によるトラブルまたはマナーについては、人の気持ちを考えての行動や発言をさせる。生徒が主体的に考えられるよう意識させる。	4月当初に「ネットモラル教室」においてネット被害や犯罪について考えさせる。SNSにおけるトラブル等についても生徒に訴えかけ指導していき、「交通安全教室」などにより自転車マナーの向上をはかる。	ルール・規範が守れない生徒も居る指導を重ねることが数件あった。その他にもSNSに関するトラブルは数件あり指導を重ねた。通学時の自転車、自転車の接触事故が多く、自転車の乗り方等については指導が必要である。指導部が門前指導をする際には服装、自転車の乗り方は少し良くならないように思われる。	C	B	交通ルール・マナーについては、生徒指導部を中心として引き続き門前指導等を行い、生徒に意識させる必要がある。今後の課題としてはヘルメットの着用を促し、生徒自身がヘルメットの必要性を考え、着用してくれることを願う。問題行動等については昨年と同じペースくらいであるが、SNSによるトラブルが発端で学年を越えて問題行動に発展しそうな場面もあった。担任・学年の先生方が中心となって指導を行っているが、SNS上の問題になると目の届かない場合もある。今後、SNSトラブルについては対策などもっと深く考えてい	
	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	生活アンケートやHyper-QUIによる面談。教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケートの内容の吟味、Hyper-QUI実施とその結果への早期対応、関係委員会での迅速な対応を行う。また職員研修を行うとともに、人権啓発ポスターの掲示も積極的に行う。	生活アンケートとH-QUIを例年通り実施したが、生活アンケートの内容を変えるまでには多少の改善が見られ、毎回同じである生徒も変化を感じられず、率直な意見が引き出せないように感じた。実施することに関しては、生徒理解の材料になるのかという点で思っている。	B	B	交通ルール・マナーについては、生徒指導部を中心として引き続き門前指導等を行い、生徒に意識させる必要がある。今後の課題としてはヘルメットの着用を促し、生徒自身がヘルメットの必要性を考え、着用してくれることを願う。問題行動等については昨年と同じペースくらいであるが、SNSによるトラブルが発端で学年を越えて問題行動に発展しそうな場面もあった。担任・学年の先生方が中心となって指導を行っているが、SNS上の問題になると目の届かない場合もある。今後、SNSトラブルについては対策などもっと深く考えてい	
3. すべての人にとって安全・安心な学校生活空間	環境美化	SDGsの理解と実践	校舎内のゴミの分別を正しく行うように心がける。また、教室を含め校外の美化に務めるよう意識を高めている。	環境・健康やエネルギー問題を意識し、実践できるようになる。また、物を大切に使用し、公共の場の美化に努める行動がとれるように	ポスターの作成など啓発活動を通し、ゴミの分別や、ゴミを減らしたり、節電や清掃活動など、環境を考えた行動や、健康やエネルギー問題を意識した行動がとれるようになる。	啓発活動はできなかった。ゴミの分別にはできるようになったと思う。ただ、清掃に関しては十分にできていない箇所も少なくなからずある。掃除監督の教職員がいなくても掃除ができるようになって欲しい。	C	B	年度当初はゴミの分別について周知している。その後の取り組みとして節電や節水など身近な取り組みが環境に影響することなどの啓発活動を行ったかったが、実施できなかった。ハンドソープの使用が浸透してはいるが健康を考えた行動はできていると思うが、清掃活動などもっと取り組みが必要である。また、トイレや洗面台の老朽化やデザインの影響もあり、水が流れたままや、使用不可のトイレ、手洗い場の不足もいる。トイレの改修などお願いしたい。	
	事務	施設の整備・点検	施設設備の老朽化により、生徒・職員の安心・安全にいくつかの問題がある。	・温暖化・異常気象に伴う空調機器の更新。 ・電気代高騰に伴う省エネかつ安全対策による教室LED電球化。	・補助金活用による、空調機器更新。 ・予算計画による教室LED化。 ・その他老朽化場所・機器等の更新・修繕等。	・補助金を活用し、第1校舎・第5校舎の空調設備の更新を行った。教室についても当初予定のLED化を実施。その他については、未実施有。緊急度を見て、今後も実施していきたい。	B	B	ここ数年、大きな問題となっていた空調設備の更新を補助金活用により実施できたことは大きい。教室についても計画通り、LED化を実施。生徒通学通路の危険箇所を早急に対応したい。合わせて、第二体育館が非常に古いので来年度は是非、LED化を実施したい。いろいろな式・集会を実施する上では明るさが低すぎる。体育・部活動の影響も心配です。	
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	新型コロナウイルス感染症に対する扱いが5類に移行したことを受け、生徒募集関係の行事をより充実させるべく企画立案を進めている。教育振興会活動においても、これまで中止していた活動の実施を目指し、各種行事の計画に取り	効果的な情報発信の仕方を工夫するとともに、保護者参加の活動機会を増やすことで、広く本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	パンフレットの内容など広報のあり方を見直し、生徒募集に対する効果を検証する。中学校対象の説明会やオープンスクールの内容を充実させ、本校教育について広くアピールする。また、機関紙「北振」、登校視察、交流会等の教育振興会活動を通して保護者との連携を	教育振興会の活動として、生徒指導部は登校視察を3回実施。文化部は「北振」136・137号を発行した。人権部は人権映画鑑賞会を実施。企画部は体育祭バザーを実施した。生徒募集関連では第2回オープンスクール、中学校対象入試説明会、塾対象説明会、学校説明会、個別相談会などすべてを予定通り実施した。高校説明会も中西部地区の中学校27校、鳥取県東部築5校で実施することになった。	B	B	本年度は感染症対策が緩和されたことにより、教育振興会活動においても役員の方にご協力いただき、昨年より多くの行事を実施することができた。今後も保護者同士の親睦を図るとともに、生徒の学校生活の様子や教育活動について知っていただく機会を増やしていきたい。また、生徒募集関連行事として、オープンスクール・入試説明会・学校説明会・相談会等の対外的な行事もすべて実施することができた。特にオープンスクールでは開催時期を早く、実施回数も増やしたことで、コロナ禍以前の人数を超える中学生・保護者の方に参加していただくことができた。授業体験と併せて、新部活の紹介やドローンサッカーの体験なども取り入れたことで、新しい北高をアピールする機会になったのではないかとと思う。今後も本校の教育活動を広くアピールするため、新しい取り組みを企画し、実行していきたい。	
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われている予定である。	地域からの活動依頼に積極的に応えようと共、本校発案の活動に取り組んでいく。	あいさつ運動の実施や地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に進めていく。	登校時のあいさつ運動は例年に比べて少なかったが、校外美化活動は昨年よりも多くの生徒が加わり実施できた。	B	B	今までの行事や活動が本格的に再開された1年だった。校外美化活動では生徒会執行部の生徒だけでなく、部活動での参加もあり、約50名の生徒が参加してくれた。また、皆生トリアスロンのボランティアにも昨年より多くの生徒が参加してくれた。今年は部活動単位の参加者だけでなく、個人で参加し入れた生徒も多く、地域に貢献できていると思う。来年度以降も様々な行事に取り組み、活動が盛り上がるよう継続させていきたい。	
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	門前指導により、挨拶励行や交通マナー改善、服装指導を実施している。自転車マナー、服装指導には改善が必要である。	交通安全運動について、先生方が協力により、毎朝の門前指導(挨拶・交通安全運動)を実施し生徒の規範意識を向上させる。また、マナーアップ活動により生徒会、各委員会や地域の協力も得て、生徒自身が主体的に行動できるようにする。クラスでも担任発信によりマ	先生方のご協力により、毎朝の門前指導(挨拶・交通安全運動)を実施し生徒の規範意識を向上させる。また、マナーアップ活動により生徒会、各委員会や地域の協力も得て、生徒自身が主体的に行動できるようにする。クラスでも担任発信によりマ	交通安全運動について教員、保護者や生徒会の生徒で門前指導を行った。自転車等の乗り方やヘルメットの着用については、朝礼で指導部、担任の先生方で随時クラスの状態に合わせて話をしていた。生徒の服装の乱れが若干見受けられるようになり、学年、指導部でも指導を行った。	D	B	交通安全運動については指導部が中心となり行った。この期間は問題なく登校をしていたが、登校下校時に事故のないように、担任発信で交通マナーについて話をしていた。今後も継続させていく。夏休み明け、生徒の服装の乱れが見受けられ何名かの生徒を指導した。4月当初よりクラスにおける服装指導をお願いしてきたが時期により乱れがあった。学校祭が終わったと同時に各クラスで服装指導を行って頂き、朝の段階では守れるようになったが、まだクラスによってはいると思われる。指導部でも抜き打ちの服装指導、門前指導などを実施する予定である。	
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉機関との連携	・新型コロナ感染症の取り扱いが5類になったことはいえ、引き続きの感染予防対策が必要であることやなぜ症状の際の取り扱いも実習中では各施設で異なることがある。引き続きの調整が必要である。 ・看護師国家試験の合格率も111回は低かった。何とか、100%に向けて指導が必要である。	・感染予防対策の徹底 指導 ・なぜ症状の際の報告、必要に応じて受診をし、早期に対処していく。 ・看護師国家試験 学習指導	・体調が悪い場合は、受診をすすめ、臨地実習については各施設の対策・状況に応じて、実習を行った。 ・国家試験対策を1月には行い、指導を行った。しかし、国試後の自己採点では思われない生徒もおり、合格発表を待って、さらなる指導を行う予定である。	B	B	・医療分野では引き続きの感染予防対策が求められていることもあり、状況に応じた対策を継続していきたい。 ・国家試験対策では、オンラインの活用も増やし、対策を強化していく必要がある。		
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	新教育課程の展開2日目となり、1・2年生は毎週各コース1単位の探究学習に取り組む。3年生は現行の教育課程による探究学習を維持展開する。	コースの探究テーマに則した指導に組む中で、地域が抱える課題を発見し共に考え、課題解決の方法を探していきたい。また人間力を高めることを目標とする。	カリキュラムの枠を超えて、様々なイベントに参加する中で、地域が抱える課題を発見し共に考え、課題解決の方法を探していきたい。また人間力を高めることを目標とする。	地域との連携としては、1年生は職業ガイダンスを1学期に実施、2学期はインターンシップに展開する。学校祭では、コロナ禍での経験を活かし、参加できない生徒や保護者にオンライン配信をした。	B	B	10月に1・2年生の探究学習が、コース別・学年別に実施された。その間、準備も計画的に行い無事実施の運びとなった。今後2年生は、3月の発表を中間目標に計画的に取り組ませたい。優秀者には、最終年度の桃源祭で代表発表ができるような流れにしたい。今年の学校祭でも文化的な展示も徐々に見受けられるようになってきたので、次年度は探究学習に係る学術展示ができるよう計画をしたい。	

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C: 取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D: より一層のまたは新たな方策が必要である